

甲状腺外科草子 43

飛行機嫌いの名機探訪：知覧

杉野 圭三

昔からの飛行機嫌いである。車の運転や列車での旅行は大好きだが、着陸時の速度を落とし地面が迫ってくる瞬間は落ち着かない気分となる。特に、雪で真っ白になった千歳空港へ着陸した時は緊張の極致であった。

ホノルル国際空港（現ダニエル・K・イノウエ国際空港）への着陸では、隣接するヒッカム空軍基地が間近に見え、往時の淵田美津雄飛行隊長の様な興奮を味わった。

今は昔（2004年）、鹿児島を訪れた時に知覧特攻平和会館へ寄る機会があった。会館正面には隊員の銅像と練習機が飾られている。



隊員の銅像と航空自衛隊練習機 T3

会館には特攻隊員 4500 の遺品と 1036 柱の遺影が陳列され、これらの展示品を見て平静を保てる人はいない。館内は肅然とした雰囲気であった。日本人であれば、一度は必ず訪れるべき場所である。



零式艦上戦闘機（五二型丙） 一式戦闘機隼（III型甲）



三式戦闘機飛燕（II型改） 四式戦闘機疾風（I型甲）

ここには当時、太平洋戦争初期の零式艦上戦闘機、一式戦闘機隼をはじめ、後期に活躍した三式戦闘機飛燕、四式戦闘機疾風が展示されていた。飛燕は現在「岐阜かかみがはら航空宇宙博物館」で展示され、日本では珍しい液冷エンジン（最終型は 1500 馬力）を搭載した快速の名機である。疾風も 2000 馬力のエンジンで 620 キロ以上の速力を誇り米軍に警戒された名戦闘機である。性能の詳細はキリがないので省略する。

知覧は薩摩の小京都と呼ばれ、当時のたゞまいが残り、武家屋敷や庭園で有名である。

戦争の傷跡の残る特攻平和会館を一步出て、閑静な街並みを散策すると、時代の変遷による余りにも大きな較差に戸惑う。



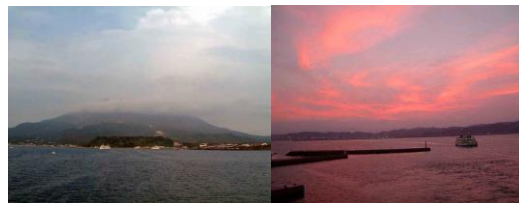
武家屋敷通り

庭園

在りし日に、陸軍の若きパイロット達は基地で猛訓練を受けながら、この優雅な武家屋敷を散策したのかもしれない。

阿川弘之氏の「雲の墓標」にも、海軍のパイロット達が、たまに許される休養日に市内の人々と親睦を深めたことが描かれている。

限られた命と知りながら多くの若きパイロットたちは、桜島や錦江湾の美しい風景を見ながら日夜訓練を行ったのであろう。



桜島

錦江湾夕景

小説「雲の墓標」の一節で筆を擱く。

雲こそ吾が墓標 落暉よ碑銘を飾れ

（知覧特攻平和会内の画像は Wikipedia を参照）

（一甲状腺外科医の徒然なる随想）

2022年9月8日